

木もれ陽

文責 平川 千秋

合唱コンクール迫る🎵🎵🎵

合唱コンクールに向けた練習が本格化しています。朝と帰り、きれいなハーモニーが校舎内に響いています。途中で立ち止まって耳を澄ますと、同じ楽曲でも、歌い手によって変わっていることに気づきます。そして、同じ学級の歌でも、一度歌うのを中断し、その後で歌い直しているのを聞くとまた違って聞こえるのです。それこそが練習を重ねていく上での“進歩”なのでしょう。

学級担任をしていた頃は、毎年この時期が来ると生徒と同じように緊張感が高まって胃が痛くなったことを思い出します。今は（担任の先生には申し訳ありませんが）各学級でどんな歌が完成するのか、わくわくして期待感でいっぱいです。



例年と大きく違うのは、飛沫感染を防止するために、“マスクを付けたまま”“距離をとって”歌わなければならないこと。歌いづらさはもちろんのこと、声量も間違いなく下がってしまうでしょうし、ハーモニーを確認し合う点でも支障が出ているかと思えます。そんな中でも、各学級で目標を定め、工夫を重ねて、心を合わせて、自分達だけの歌をつくろうと努力している様子を見ると、皆さんの力は本当にすごいなと感心しています。どの学級の指揮者も曲想を考え、全身を使って指揮をしています。伴奏者はおそらく夏休み前から練習を始め、合唱を支えています。歌声委員は練習計画作成から毎日の練習の準備・後始末をしています。各パートリーダーから呼びかけと指示があり、それを受けて歌う各パートのメンバーがいる……。そうした一人一人の力が合わさってできあがる学級合唱は決して一人だけではつくることのできない貴重なものと改めて実感します。

明日は中間発表会。まずはここまでの努力の証を表現してみてください。この先、本番までの1週間が劇的に進歩・向上する時間になるかと思えます。だからこそ、今できることを今必死にやり遂げて、自分達の力を確認してみてください。歌には人の心を打つ力があります。歌には人の心に訴える力があります。皆さんの心から発せられた思いが、皆さんの身体を通して聞く人の胸に届くことを楽しみにしています。



歌は心に訴える

